

田植えは天気の良い風の弱い日に行い活着を促しましょう。また、地域や品種毎に適期が異なるため、極端な早植えや遅植えにならないよう注意しましょう。

《病害虫防除》

○薬剤による防除

田植時に初期害虫および葉いもち病予防のためツインターボ箱粒剤08（1箱当り50g）を育苗箱にまんべんなく施用してください。

《田植え後の管理》

○水管理

田植え後から活着するまでは葉先が2～3cm出る程度の深水としましょう。活着後は水温を上昇させるため、好天の時には水深2～3cmの浅水とし、気温が15℃以下となる低温の時には深水とするなど、こまめな水管理に努めましょう。

○除草剤の使用法

初中期一発処理除草剤の効果を高めるため、使用摘期に散布しましょう。

特に、代かきから田植えまでの日数が長い場合や好天が続いた場合は、雑草の生育が進み除草剤の効果が弱まることもあるため、早めの作業に努めてください。

また、除草剤散布後3～4日間は水を動かさないようにしましょう。

○カメムシ防除のため6月上旬にも畦畔の草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は年3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果がありますので、地域一斉で行うなど計画的に実施しましょう。

○いわて平泉米 PR 活動

4月12日から関西圏（大阪・京都）にて「いわて平泉米」を販売・PRしております。

消費者の方へ試食販売を行い「おいしい！」と大変好評でした。

